
最期の言葉

hidaka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最期の言葉

【Nコード】

N2498D

【作者名】

hidaka

【あらすじ】

最期の言葉を告げてやろうと思っていた。私は終わったと思っていた。もう静かに還ろうと思っていた。でも私にはできなかった。最後に何か特別なことが起こった訳ではない。私が強くなった訳でもない……

(前書き)

最期、それは儂くあつけない。

そして、それを悟る時は突然やってくる。それが果たしていつなのか？ 知りたいという人はいるのかもしれないが、僕は知りたくない。

人生という、一世一代の大勝負。それがいつ終わる100%の精度で予知できてしまうと、その別れを常に意識しながら生きて行かなければならなくなるから。

何にも思いつかない。でも、何か沸きあがってくるものがある。
身体は動こうとしていない。でも、気付けば足の先が動きたくっ
てつづつづしている。

私は、今が最期だと思う

空が青く、雲は白い

それは、地平線まで途切れはしない

海は平穏を守り、山は一部の間も見せない

これで、バランスは取れていた

それで良かった

変わる必要はなかったし、変わって欲しくもなかった

そのままです、どこも悪い所なんてなかったはずだ

私は、今から先に旬は来ないと思う

だって、もう頂上を越えてしまったから

あの充実感、満足感を味わってしまったから

御籤で大吉を引けば、後は下り坂しか残っていないだろう

その坂は、知らず知らずの内に傾斜を荒げていく

スピードは上がっていく

もう止まらない

私は、今から先の暗闇を越えることは、多分できないと思う

一度、明るさを体験してしまったから

暗がり拒む権利を一回手中に収めた事があったから

権利というものを失ってから、抗う気力を使い果たしてしまったから

暗闇は果てしない

我が道の長さ、闇の大きさは正比例する

私は、今からやり直すことなんて、できないだろうと思う

保険をかけているわけでもない

私は手ぶらで、ただここに在るだけ

私という存在は、私にとって重くなった

デコレーションケーキは、分解してしまうとつまらない

苺1つでは、物にならない

新たな道は、今までよりも細かった

木々がつつそうと茂る、あぜ道だった

少なくとも、私の目にはそう見えた

私は、今から最期の言葉を発しようと思っていた

あぜ道を進んで行くと、見晴らしのいい原っぱに出た

そこの空気は美味しかった

気づけば、涙が止まらなかった

この道に進んで良かったなんて一瞬思った刹那、その先が見たく
なった

期待してしまった

もう期待なんて言葉、遙か向こうに棄ててきたと思っていた

手元に残っていたのは、ガラクタばかりだと思っていた

でも、その中にも光を私は見てしまった

それに魅せられて、引き止められてしまった

私は、もう一回人間という奴らに会いたくなつた

最期の言葉は、遺せなかつた

(後書き)

勢いで書きちゃいました……

とにかく、ご一読、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2498d/>

最期の言葉

2010年10月20日19時06分発行